



ニュースレター

2025年（令和7年）5月5日 グリーフワークかがわ広報部

◆「グリーフケア 悲しみに寄り添える人を育てる」◆

講演・パネルディスカッション 聴講レポート

2025年3月23日に四国カトリック会館にて「グリーフケア 悲しみに寄り添える人を育てる」をテーマとして、上智大学グリーフケア研究所所長、カトリックイエズス会司祭、上智大学神学部名誉教授の山岡三治先生の講演とパネルディスカッションが開かれました。

山岡先生の講演では、15名の司祭、修道士たちが暮らす高齢者介護施設のイエズス会ロヨラハウスを紹介してくださいました。司祭、修道士たちは世界各地にいますが、それぞれ送られた場所で死を迎えることになっているそうです。

「ここは私のいるところではない！まだ働ける！」というロヨラハウスのある利用者がいました。その背景にあるものは、何でしょうか？「宣教の場所は、神様から与えられたものだ。しかし、働けないということは、その場を手放さなければならない」という場所を失った痛みを抱えていたのです。まさに、グリーフの只中からうまれた言葉であったのだと思います。

死に向かう孤独を恐れるよりも、教会で人々と関わる機会が失われることが恐れなのだという、神とともにいる宗教観が大きく影響しているのであろうと感じられるエピソードでした。また、グリーフの個別性についても考えさせられる言葉であり、一人ひとりの価値観によっても影響をうけるものであり、言葉の表面を捉えるのではなく、発せられた表現の根本にところを向ける大切さを再確認しました。

日本人の価値観は、人に迷惑をかけてはいけない、我慢が美德、と思うこともあるかもしれませんが。しかし、西洋の人々は、私は生きている限り人に迷惑をかけている存在で、痛い時は痛い、と表現する文化であります。その表現する力が、グリーフワークへとつながっていくのでしょうか。私たちも言語表現、非言語表現ともに大切に育みながら、ありのままの表現にまなざしを向けていく必要があるのではないのでしょうか。

講演の最後には、コンパッション・コミュニティについてお話いただきました。かつて葬儀や結婚式などでは、近隣で助け合うコミュニティが自然と形成されていたことを上げ、一人ひとりが意識して社会全体でグリーフを考えていく必要性を示されました。

後半は、当法人の杉山事務局長も加わり、パネルディスカッションが行われました。グリーフワ



ークかがわの活動の原点として、娘さんを交通事故で亡くされたお母さんの声が当法人の活動の原点であることを話され、寛容に支え合えるような地域が必要ではないかということから研究会が立ち上がった、と経緯を話しました。

「上智大学グリーンケア研究所では、聴く力はどう育んでいるか」という問いが出され、山岡先生からは、その人のバックグラウンドを理解していくこと、悲しみだけではなく人生を聴いていくことの大切さが話されました。杉山事務局長からも、まずはともにいる、一緒にお茶を飲もうなどと声を掛けると、そこにプラスして「語る」が出てくることもあり、日頃の喪失を丁寧に拾い上げていく必要性や、互いに理解していく積み重ねが横のつながりにもなっていくことが話されました。講演の後にパネルディスカッションという形式のため、理解が深まり、大変わかりやすく聴講させていただくことができました。

(文責 認定グリーンカウンセラー 秋山美智子)

◆必須研修「コンプライアンス研修」に参加して◆

3月21日(金) 必須研修「コンプライアンス研修」を受けてきました。職場でも何度も繰り返し「コンプライアンス研修」を受けます。職場の研修はほぼ同じ内容なのですが、数か月に1度受ける事になります。それは多分、不適切な行為・会社に不利益な違反・社会通念上許されない行為等が社内で後を絶たないからだだと思います。また世間のニュース等で話題になる事も多く、同じような間違いを社員が起こさないようにという企業側の懸念もあるからだと思っています。

今回研修の最初に、香川労働局にお勤めの講師の方(NPO 団体 はたらくしろくま 代表 青木久美子 氏) から「コンプライアンスとは？」の説明を受けました。聞きなれた単語ではありますが、講師の方の分かりやすい説明で、「なんとなく・・・」の理解であったものが正確に理解でき、自分の言葉で説明ができるくらいになりました。GWKのいつもの研修とは違い、「喪失」等専門の分野から離れて「人として」の基本の部分を教えて頂いた感覚です。また様々な事例も説明していただきました。中でも「採用試験で聞いてはいけない質問」にはビックリです。限られた言葉の中で面接に来た人を見極めないといけない面接官の方々。お気の毒です。何を質問したら良いんでしょう？と思いました。このように、時代とともに変わっていく常識にアンテナを張れなければ、私も罪悪感無しで人様を簡単に傷つけてしまうかもと少し心配になりました。

講義の合間でのグループのセッションでは、「グリーンワークかがわの会員さんは、皆さん優しい方なので、カウンセラー活動でコンプライアンスを心配する事は無い気がする。(相談者に対して非礼は無いと思う。)むしろ会員間でのやり取りの中で、気を付ける事があると思う。」と発言された方がいました。そうかもしれない、と私も思いました。

会員の皆さんは各方面の専門家で、常に努力をされて来られた方々。とても尊敬できる方々。ただ生きてきた時代が違うために、時々ズレのようなものを感じたりする事はありました。今後はズレとは思わず、歩み寄って心を寄せて行きたいと思います。「何が正しい」では無くて「皆が心地よい」を目標に、お互いに思いやりながら更により良い団体への一員として私も微力ながら努力をさせていただきます。

(文責：認定グリーンカウンセラー 林 和代)

～ Feeling in Daily Life ～

◆ ゆったり ◆

私たちの生活で、エレベーターに乗るのは、稀なことではないと思います。そのエレベーターに乗って行先階を押した後、皆さんはどうしていますか？

先日、私がエレベーターにボーっと乗っていると、あとから乗ってこられた方が、さっと「閉じる」ボタンを押しました。当然ドアはすっと締まりました。その瞬間私は、はっとしました。自然にドアが閉まるのに何秒かかるのでしょうか？ほんの数秒ではないかと思います。その数秒が待てない現代人が、本当にせかせかとして生き急いでいるように思えてしまいました。「モモ」(ミヒヤエル・エンデ著)の“灰色の男たち”を思い浮かべました。

朝顔の種を蒔いても、芽を出し花が咲くまで、水と優しい太陽の光を与えながら、時間をかけてやっと花が咲きます。「ゆっくり」、「ゆったり」、「余裕」、「ゆとり」、「緩む」、「許し」、「自由」、「遊戯」、「治癒」、「愉快」、「夢」、「悠々」…。「ゆ」のつく言葉に、なにかヒントがあるように思えました。

せわしい毎日、忙しくあくせくとしてしまいがちですが、そんな時こそ少しペースダウンを試みてはどうでしょうか？

(認定グリーンワークカウンセラー K I Y O M I)

◆ 2025年4月13日 第208回理事会 ◆

《審議事項》

第1号議案：3月末の会計に関する事項

事務局長からほぼ決算額が確定したことと会費について報告があった。未納者へは1月に督促を行った。報償費の額への疑義があったため、監事のコンサルテーションを受けることでも了承された。

第2号議案：三豊市からの身近な人のグループミーティング事業委託依頼に関する事項

4月4日に三豊市福祉課と理事長での面談があった。三豊市が自殺対策予防事業として、今年度から当法人へ委託提案のあった標記事業については、技術援助事業に位置付けられることを確認するとともに、三豊市外からの参加者を排除することなく、広域行政サービス事業として実施することを担当課だけでなく市財政当局に対しても確認も取っておくことでも了承された。

第3号議案：21回社員総会役割分担と準備に関する事項

会場と当日の役割分担について審議された。監査時期を踏まえた準備日程を組んで行き、今年度は役員改選の年に当たることから、総会案内通知のさいに役員員の自薦及び他薦書を同梱することでも了承された。

第4号議案：香川県精神保健センターゲートキーパー普及啓発事業への講師派遣に関する事項

技術援助主担当理事により、香川県精神保健福祉センターから示された資料にそって説明の後、理事長と理事1名を講師で派遣することでも了承された。

第5号議案：香川県社協傾聴ボランティア養成講座への講師依頼に関する事項
理事長からメーリングで認定カウンセラーへ呼びかける事で了承された。

第6号議案：相談事業の主担当の選定と役割に関する事項
グループミーティングに関して、「大切な人をなくした方のグループミーティング」「ひまわりミーティング」のリーダーの立場を今後明らかにし、リーダーのコンプライアンスの確保のためにも、理事長からリーダーの役割を明記したものを明示し認定カウンセラー会議及びカウンセラーメーリングで説明を行うことで了承された。

第7号議案：相談業務に従事する者の事例を踏まえた教育研修に関する事項
教育研修主担当理事から提案理由の説明があり、2025年度から事例検討を必須にすること、及び教育研修担当理事が率先して、事例検討をスタートすることで了承された。

第8号議案：琴平町地域包括支援センター介護予防サポーター養成講座への講師派遣に関する事項
技術援助主担当理事から標記講師派遣先への照会とその回答についての概要の説明があり、受諾の方向で理事長から認定カウンセラーに呼びかけることで了承された。

第9号議案：「ひまわりミーティング」の単発のチラシ作成に関する事項
認定カウンセラーから提案のあった高松市男女共同参画センター及びミライエ内に配布する「ひまわりミーティング」のチラシ作成（案）について審議が行われ、6月と7月分については、①定員記載の部分は削除、②予約は不要の記載、③グリーンワークかがわの活動概要の記述、④対応スタッフをグリーンワーク認定カウンセラーとすることで了承された。

以上

～ 編集後記 ～

新緑の季節です。写真は、クスノキ。透き通るような柔らかい緑の葉に心惹かれて、一枚ぱちり。

クスノキは常緑樹。春から初夏にかけて新芽を出しながら、落葉しています。漢字で書くと、「樟」または、「楠」。昔は、箆笥にクスノキから作られた「樟脳」を防虫剤として使っていました。いつからか、「化学的な防虫剤を、使い捨てる」のが、当たり前になり、普段の生活においても、いろいろなものを使い捨てる時代となりました。

クスノキは街路樹や神社仏閣でよく見かけます。高松駅からの中央通りに植えられているのもクスノキ。トトロの樹としても有名です。

外出して、クスノキに出会ったなら、地面をみて落葉を、見上げて若葉を見てください。葉を細かくちぎると、スーッとする匂いも。初夏の爽やかな日に、ちょっぴり、自然の香りや樹木の「生」に心を寄せてみてはいかがでしょうか。ご寄稿頂いた皆様、ありがとうございました。（青木）

